

2023年1月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 1月えんだより

1月の聖句 「一緒に喜んでください。」

ルカによる福音書 15章1節～7節

あけましておめでとうございます。ここ数年、新たな感染症や災害、戦争等、私たちを取り巻く世界ではつらく悲しいことが多く続いています。新しい年は世界中の人々と手を携え、様々な困難を乗り越えていく素晴らしい一年となることを心より祈っています。

随分以前の話になりますが、地域で犯罪や非行をした少年少女の立ち直りを支える「保護司」の方とお話をしたことがあります。その中で、印象に残っていることは、「少年少女の多くはいい子たち」というものでした。ですが、この少年少女たちと関わるのは一筋縄ではいかないそうです。その最も大きな理由は、「大人を信用していない。」ということだそうです。彼らの多くは、これまでの生活の中で多くの大人たちから「悪い子」「望ましくない子」というレッテルを張られ、話をまともに聞いてもらえず、いつも否定されてきたからだといいます。

保護司の大切な役割であり、少年少女たちに課せられた遵守事項の一つに「面接」というものがあり、定期的に会って話をしなければならないのですが、少年少女たちの多くは、「悪い子」「望ましくない子」といったようなレッテルを張られ、「どうせあんたも自分の話をまともに聞いてくれないだろ。」と信用してもらえないというです。けれど保護司の方は、彼らにこそ私のような存在が必要。と強く訴えておられました。そのような彼らと信頼関係を作るために、保護司の方は、何度も何度もアプローチを繰り返し、少しでも話せる機会があればまず彼らの話を「聴く」ことに努めるそうです。そのためには、どのような時でも、彼らから何らかのアプローチがあった時には絶対に拒否しない。そして、彼らが面接に遅れてきたり、暴言を吐いたりしてもそのことを否定せず、まず彼らの話を聴く。そのような繰り返しの中で少しでも良いところがあれば誉める。どのような小さなことでも。このようなことを続けていくことで、少しずつ彼らが心を開き、つながりが出来上がっていくそうです。そのような関係ができると、彼らが再び非行に走ることは少なくなっていくそうです。彼らにとって必要なもの、それは、あるがままの彼らを受け入れ、その存在を認めてもらえる居場所になることだとのことでした。

神様は、迷子となり、過ちを犯してしまった私たちのことをすべて赦し、探し求めてくださいます。そして、見つけ出した時には両手を広げて喜んでくださいます。居場所をなくし、自分をなくし、迷っているものを探し続けてくださる神様と共に探し、見つけた時にともに喜ぶことができるような歩みを、毎日の中で続けていけることを願っています。

1月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	できたよ	取り組む
月の願い	*「自分で」という思いから「できた」につながった時の喜びの笑顔が増えることを願い、一人ひとりを見守っていきたいと思います。	*生活やあそびの中で、友だちと思いや考えを伝え合い、一緒に過ごす楽しさを感じながら様々なことに取り組んでいってほしいと思います。
讃美歌	「つくしのよう」 幼児讃美歌50	「きみがすきだって」 こども改132